

【めむろ未来ミーティング】

**令和7年7月 31 日 (木)**

**18:30～20:15**

## 芽室町どんぐり会

■参加者 芽室町どんぐり会 11 人

■芽室町 町長、健康福祉課長、同課長補佐兼障がい福祉係長、広報広聴係長

- 1 町長挨拶
- 2 芽室町どんぐり会代表挨拶
- 3 出席者自己紹介
- 4 意見交換

### ●町長挨拶要旨

毎年このような形での意見交換をご希望いただいております。今回、あらかじめ色々と課題や皆さんの思いを伺っていて、皆さんと同じ目線でどういうことをしていけばいいのかというところでは、同じ考え方や同じ目標でそれに向かってやっていかなきゃいけない。これまでずれていたわけではないが、相互理解がうまくできていなかった部分があったのかもしれないと思っている。このような機会に改めて確認するという意味でも、このような対話は重要だと思っている。

ただ、行政だけで全てを解決できない部分も残念ながらある。色々な事業所の皆さんや、施設の方々ともしっかり連携しながらやっていかななくてはならないと思っている。全て皆さんに納得いただけるようなことにならないこともあるかもしれないが、目線を同じにしながらいいサービスを提供していくかというところをしっかりと考えていきたい。

### ●どんぐり会代表挨拶要旨

今日はスケジュール多忙中、予定を空けていただいております。我々保護者も1年ずつ年を重ねている。残念なことに若い方の会員があまり入

ってこない状況であり、親が年を取るに従って、子供たちも一つずつ年をとってきている。10 年後を思うと不安がある。親亡き後を想定して、子ども達だけになったとき、どうやっていけるかということも思いながら、お話をさせていただきたい。

### ◆各自自己紹介ののち、意見交換

#### ◇「就労支援について」の件

### ●どんぐり会

就労した場合の継続支援、離職後のケアなど、継続した一連の就労支援システムの構築をお願いしたい。

### ●町長

まず自己紹介を含め、皆さんのお話をお聞きして、毎年のことではあるが、特に先程からキーワードとしてある親亡き後という切実な危機感や不安感は毎年にも増して大きいという感覚を持った。

テーマに沿ってお答えしていくと、就労支援。一般就労し、自分たちでお金のある程度稼いで生活できることが一番いいと思うが、今お話を聞いてもわかりのとおり、障害の違いや重さ軽さということもあるので、なかなかそうもならない。要は一人一人状況が違うので、それぞれの課題に対して必要な支援が何なのかというところを考えなきゃいけない。綺麗ごとに聞こえるかもしれないが、そのようなところから、個々の状況に合わせた形で進めていかないとならない。施設も、施設を建てたら全部解決するかと言えばやはりそうはならない。そこは私達もしっかり考えていかなきゃいけない。就労がゴールではないし、就労して非常にうまくいっている方もいるが、就労に関しては何があるかわからないということもあるので、働き続けられるということが重要。ただ単純に働けばいいとか、そういうことではないと思っている。

また、離職する場合もあるので、その時にどのような支援をすべきなのかということも考えなくてはならない。一般就労すると、解決ではないが、ある程度目的を達成したと思ってしまいうところがある傾向があるが、個々のケースに応じてケアマネージャ

一含めて連携を取り、その後何かあったときに対応できるという考え方を持たなくてはいけないと思う。

全体的な話だが、皆さん、どういうところにどういうタイミングでどのようなことを相談していいのかということがわからない部分があるのではないかと考えている。例えば今年も基幹相談支援センターができ、役場の相談窓口やオークルのよろず相談窓口などもある。そのような窓口が多いため、どこが皆さんの状況に合った窓口かわからないのではないかと考えていて、担当にも話しているが、色々なセンターや相談窓口を一度整理して、皆さんにお伝えをしていきたい。相談は役場で受けるが、そこからどこに繋いでいくかなどをシステム化や体系化していきたい。一方で、総括的に何でも受けるという体制も必要。難しい言葉で言えば重層的相談支援体制というのがあって、例えば子育ての相談をしても、そのお宅に高齢者や障害のある方がいるということになれば、それをきっかけに重層的に相談できるようなシステムにしようという動きを今やっている。今そのような体制を作り出している最中で、どこに行っても繋がるというような安心感が必要だと思っている。

また、町として全部ケアマネージャーに任せるという意味ではなく、それぞれケアマネージャーがついている方は、やはりケアマネージャーが窓口になると思っている。どこまで携わって寄り添っていただけるのかということも、町がケアマネージャーと話すことも必要だと思っている。

#### ◇「災害時の配慮」の件

##### ●どんぐり会

災害の際には、一回避難所に来て、それから障がい者受け入れ場所へ振り分けられるというのが基本だとお聞きしているが、最初からあなたはここへ行きなさいというように指定していただきたいという話が、前の水害経験からもある。どうしても知的障害があるとパニックになったり、普通の方でも緊張するようなところにいるとずっと緊張して大きい声を上げたりとかがあり、一緒にいる親もまわりに迷惑かけてはいけないと、ものすごく精神的に厳しい状況になるので、最初から指定していただければ楽である。

また、親と一緒にいない場合、例えば通所しているときであれば通所で顔見知りの方が一緒に避難所に来ていただくと本人も慣れているので助かる。そのような体制への配慮をお願いしたい。

##### ●どんぐり会

万が一のときに親や先生、世話人さんだけでは避難場所まで連れて行くのが大変なので、誰かボランティアみたいな人が助けに来てくれたり手伝ってくれたりするといい。それをお願いしたいと感じている。

##### ●町長

町の防災計画の状況を話すと、まずは近くの指定緊急避難場所に行ってもらうことになっていることはご理解いただきたい。その中で、福祉避難所に行くかどうかは、状況によって、また、本人と相談しながら決めていくというのがルール。皆さんの意見の中で、パニックになるとか、迷惑をかけるのではないかという親の気持ちもあるということを聞き、理解する部分は非常にある。そのためには、避難所になる施設の方々が、ちゃんと理解をして、まっすぐ来ていいというような体制にしないといけない。町だけが強引にお宅のところにに入れてくださいとかは言えない。施設に通所している方は、先生などいつも会っている人がいた方が落ち着くということはあると思う。そのような施設の方と町との話し合いもしないといけないと思っている。施設の職員さんも皆さん町内に住んでいるとは限らない。町外から来る方もいる。そういうところをどう対応していくかも考える必要がある。

また、災害が起きてしまうと、もちろん障がい者の方も大事だが、高齢者の方もいるし、寝たきりの方もいるし、小さいお子さんもいる。避難が必要なのに避難しないという方もいる。障がいのある方だけではなく、そのような方も難しいということはある。

町で災害支援の個別計画というものを作っている。もし災害が起きたとき、この方は誰々の手伝いを受けて、どういう避難所に連れて行くということを計画化しているもの。町内では5月時点で47名の方の計画を立てている。障がいのある方も避難行動要

支援者ということになるが、そういう方ばかりではなく、高齢者や一人暮らしの方など、健康福祉課と総務課防災担当で作っている。多くの人に対して作りたいので、ぜひ皆さんもできるだけ作ってほしい。それが全てではないが、一つの方法ではないかと思う。

#### ●どんぐり会

福祉避難所が何カ所かあると思う。前の水害のとき、うちの息子は迎えに行っても絶対に車に乗らないと言いつけて大変だった。そんな時に備えて、個別計画を立てるときに避難先に福祉避難所を指定していただければ、普段から、あなたは災害時にはこの避難所に行くということを教えられ、家庭で訓練ができる。事業所において被災したら、どこかしら避難できると思うが、家庭にいたら、やはり一時避難所には行けない。一時避難所に行くことが難しいというような人たちは、直接福祉避難所に行ってもいいという名簿的なもの作っていただければと思う。それであれば親が訓練しておける。個別計画を立てるとき、そのようなことを考えて立てていただけたらありがたい。

#### ●町長

現状として防災計画のルールがあるので、今みたいなお話しにするのであれば、ルールを変えなくてはいけない。また、受け入れる施設側がそのような状況になっているかも重要。それと、指定避難所というのは、基本的には歩いても行けるような近い場所を指定している。仮に遠くにある福祉避難所に直接行くことにした時に、水などにより行けないということもあり得る。そういうこともあるので、皆さんご不満もあるかもしれないが、基本的には歩いても行けるような所をまず指定避難所にして、そこから福祉避難所が空いているからそこに行きましょうなどと判断する流れが望ましい。移動手段などは町で準備することはできるかもしれない。指定避難所に来ていただいた際には、その都度福祉避難所とのやり取りはある。福祉避難所に行った方がいいと思う人がいるが受け入れ可能かどうかという確認や調整ができる。なので、いきなり何十人の方が来たときに、対応できるのかということろは不明。なので、施設と

の調整をしっかりと図った上で、福祉避難所に行くというルールを考えて、その上で、このような障がいをお持ちの方だから、個別計画上の指定避難所ではなく福祉避難所に直接行くということも可能というルールにしていくというステップだと思う。

#### ●どんぐり会

個別計画を策定中と仰っていたので、そのことを考えて策定していただけたらというお願いである。

#### ●どんぐり会

災害時にどのような施設への避難を望むのか町で調査してはどうか。通常の避難所で良いのか、福祉避難所を望むのか、取りまとめておいても良いのかもわからない。実際に災害が起きた場合には、頭が真っ白になるし、決められた避難所にみんな行くのは一番であり、そうなると思う。そこから福祉避難所へ振り分けるというような形にならざるを得ないとは思いますが、ある程度は事前に取りまとめていてもいいのでは。

#### ●町長

町としては福祉避難所などの拡大を検討できないかまず考えていきたい。先ほども話した、福祉避難所に直接行きたい場合のルール作りも考えていく必要がある。皆さんには、周りの人にも助けてもらえる可能性があるので、個別計画を作ることに對して手をあげていただければありがたい。役場も健康福祉課と災害担当でタッグを組んで色々考えていく。周りで支援していただける人にアプローチすることも安心材料になるのでは。

#### ◇「相談支援について」の件

#### ●どんぐり会

障がいのレベルにもよるが、自宅に届く文書などを、親がいなくなった後でも理解できるようなサポートをしていただきたいと思っている。町のシステムとして耳が聞こえない方向けの手話通訳がいるということを知って感心したが、普通の文書が理解できない人もいるので、そのような人に、このような連絡が来ているとサポートしていただけるようなことをしてもらえると助かる。

また、障がいの種類やタイプによっては、顔見知りの人とは話せるが、初めての人とは話せないということもあるので、人事で担当者が代わられる時などは、障がい者本人に対してできれば複数回、顔を合わせて引継ぎをしてもらえたらありがたい。

#### ●町長

人事の話からさせていただくと、この前も担当課長や課長補佐とも話したが、課長や課長補佐がこのような場に顔を出すだけではなく、実際の担当者が例えば皆さんがやっているイベントに顔を出して、顔を覚えてもらうということも必要だと思っている。その辺りは反省点として改善しないといけないと思っていて、前向きに検討していきたい。

また、オークルに委託している業務に、障がいに係るよろず相談というものがある。それに関してもまだ周知が足りないと思っているので、きっちり周知していきたい。町も相談は受けるが、オークルで相談を受けた方がより専門的だったり状況が理解しやすかったりするので、しっかり周知していきたい。

#### ●健康福祉課長

文書に関しては、障がいをお持ちの方もそうだが、高齢の方が特に多く、送付先をどなたか代わりの方に变更后案内するようにするとか、ホームヘルパーさんが一緒に見てくださるとか、こちらからお手紙を出すときにヘルパーさんに対して、届いたら一緒に見てあげてくださいとお願いをしたりしている。そのような対応はこまめになるべくするようにしているが、届いて何もわからなくて手続きしなくてはいいけないことができないということはないように、色々な方法で対応していきたい。

#### ●町長

一人暮らしをしていて、文書が来ても理解できないとなると、お父さんやお母さんが一番説明してあげたりできる立場ではあるが、その後はケアマネジャーがそうなると思う。町の職員が一人一人に細かく説明できればいいが、現実的にはそうはならない。聞いていただければきちんと対応するが、ケアマネ

ージャーと信頼関係を構築して関係を深めていくことも必要かと思う。

#### ◇「通院時の支援」の件

##### ●どんぐり会

通院時に同行してくれる人がいると助かる。

#### ●町長

聞いているのは、ケアマネジャーが同行してくれるようなケースもあると聞いている。すべてに行ってくれることではないと思うが、説明ができないのでお母さんお父さんから説明してくれますかとということもあるかもしれないし、実際の状況がわかっているならば、ケアマネジャーが同行して話をするとということもあるだろうと思う。

##### ●どんぐり会

ケアホームに入ったらヘルパーさんが利用できないと言われた。ケアマネジャーに同行を頼む考えはなかったが、頼めば行ってくれるケースもあることを知れてよかった。

#### ◇「その他」の件

##### ●どんぐり会

毎年お願いしていることだが、障がいの程度が違ったり予防接種等の格差が大きいので、なんらかのサポートを検討していただきたい。



20 時 15 分終了